

式を表示する

ER18028 久保 宏樹

2020 年 12 月 20 日

1 式の表示について

chapter4.equation.tex と chapter4.equation.pdf を照らし合わせて読んでください。

usepackage で amsmath を指定すると式を記述可能になります。また bm を指定すると式内で太文字のベクトルが記述可能になります。

式は、式 (1)(2) のように参照することが可能です。基本的に、式を記述する場合、必ず 1 度以上参照する必要があります。また、一度コンパイルしただけだと、参照した時に「？」と表示されるので「pLaTeX(ptex2pdf)」を 2 回コンパイルを実行する必要があります。

VScode での環境構築が完了している場合、「ctrl+s」で保存するだけでコンパイルが完了します。

$$x_1 = L_1 \cos \theta_1 \quad (1)$$

$$y_1 = L_1 \sin \theta_1 \quad (2)$$

文章中に x_1 のように、数式を表示させることも可能です。(ただし、文章中の数式には数式番号がつかない)

2 課題

必須：author を自分の名前、date を提出日に変更してください。

任意：式を追加してください(式は何でも可)。また、ref を使用して「式を式 (1) に示す」の様に参照してください。式の場合は式 1 ではなく、式 (1) の様に、括弧で囲んでください。

編集が完了したら、コンパイルしてください。

VScode で編集している場合、「ctrl+s」で保存 & コンパイル 「ctrl+alt+V」で出力される pdf をプレビューできるので変更点が反映されていることを確認してください。